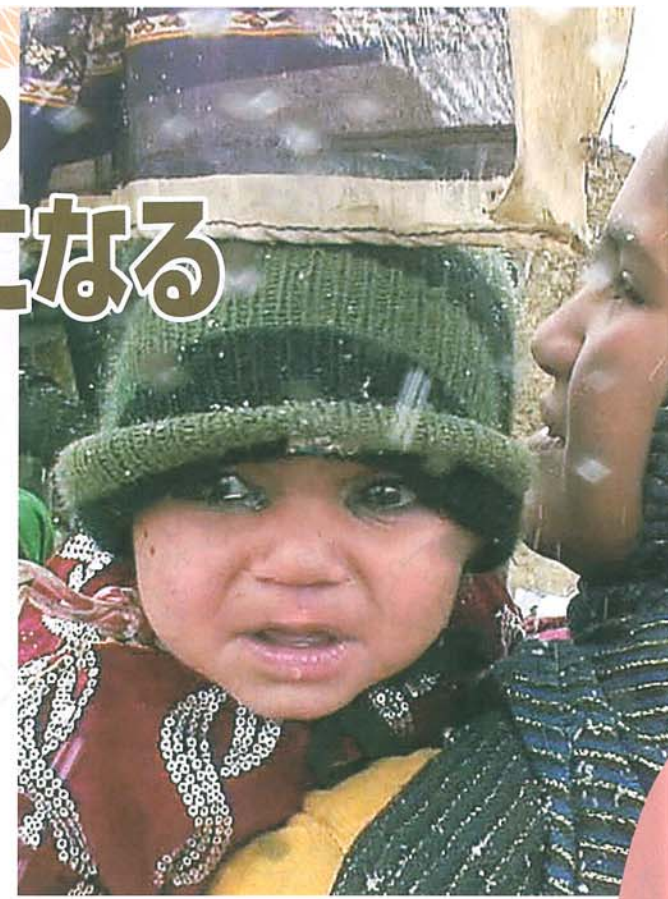




焼身自殺を試みたアブサナさん(ヘラート)



雪で覆われた避難民キャンプ(カブール)



大雪の中、寒さに泣き出す子ども(カブール)

極寒のアフガンで見たのは 戦争や貧困で犠牲になる 女性と子ども

ジャーナリスト 西谷 文和



「ヘラートに入ったのですか 勘弁してくださいよ」

カブール空港でヘラート 行きの飛行機を待つ。目立 つのは民間軍事会社の社員 たち。ごっつい身体にスキ ンヘッド、太い二の腕には

9・11事件から始まった「テロとの戦い」は、とうとう10年目 を迎えてしまった。イラクでは100万人単位の民間人が殺さ れ、アフガニスタンでは、今も「タリバン掃討作戦」という名の 「農民大虐殺」が続いている。アフガニスタンと言うと、「砂漠に 囲まれた暑い国」というイメージがあるようだが、実は逆で、 首都カブールの冬は猛烈に寒い。今回は極寒のカブール、避難民 キャンプで毛布を配り、その後、イランとの国境の街ヘラートを 訪ねた。そこで見たのは、戦争や貧困で犠牲になった、女性や子 どもたちであった。

大きな入れ墨。彼らのほと んどが米軍や英国特殊部隊 のリタイヤ組。軍隊にいる より民間軍事会社に雇われ た方が、ハイリスク・ハイ リターン。つまり給料が良い。 私はと言えば、髭を長め に伸ばし、アフガン民族衣 装に身を包む。治安がどれ ほど悪いのか分らないの で、できるだけ外国人だと バレないように自衛する。 1時間半ほどのフライト で、ヘラートに到着。空港 からタクシーで街へ。

ヘラートは予想以上に美 しい街で、アフガン軍の検 問所も少なく、治安は安定 している様子。しかし用心 に越したことはないの、 警備兵付きの、鉄の扉に 守られたホテルにチェック イン。その後、私の携帯 に外務省から電話。

誤って熱湯を浴びる 子が後を絶たない

ヘラートの街を歩く。一 見すると街は平穏のようだ が、メインストリートには、 地雷で足を失った男性、青 いブルカをかぶった女性た ちが路肩にうずくまる。長 引く戦争によって、物乞い が多数。1日1ドルの「貧 困ライン」以下の生活が、 この街では普通のこと。

わずか2カ月で8件 若い女性の焼身自殺

14番のベッドへ。やはり 少女の全身にはぐるぐる巻 きの包帯。

「自殺未遂だ」。えっ、自殺？ 「先週、この娘は灯油をか ぶって火をつけた」。 なぜ？「望まない結婚を 強いられたからだ」。全身 の75%に大やけどを負っ て「多分助からないだ ろう」と医師は言う。まだ 辛うじて意識があるので、 事情を聞く。 アブサナさん、17歳。「あ の人と結婚しなさい」。母 朝、少女は灯油をかぶって 火をつけた。 「誰と結婚させられよう としたの？」 「親戚のおじさん」

「その人は好きでなかっ たの？」 「大嫌い」。 アフガニスタン、特に貧 しい村では、親や部族長が 勝手に結婚を決める場合が 多い。年頃になった娘を、 金持ちの男に嫁がせて、い くばくかの金を手に入れよ うとする。娘に決定権はな い。嫌々ながら妻になるか、 油をかぶって自殺するか、 これも家庭内暴力(DV) でも同じこと。嫁いだ先の 夫がとんでもない暴力男だ った。殴られて骨折しても、 タバコの火を押し付けられ ても、妻は実家に帰れない。

テントの中で寒さで 凍え死ぬ子どもたち

「この病院には、今年に 入って(2ヶ月で)8件の 焼身自殺者が運ばれてきた よ。去年は87件。やけど 治療ができる病院は、ここ しかないから、周辺の村か らどんどん運び込まれてく るんだ」。戦争、貧困、そ して女性差別。この国では 様々な問題が横たわってい る。

50億ドルもの支援金は 汚職と成金たちの懐に

私がカブールに滞在して いたのは約2週間。その間 に自爆テロが2回発生した。 狙われたのは、高級デパー ト。アフガン復興費に群が り、米軍から仕事をもらっ ている「にわか成金」と、「ア フガンで金儲けをする外国 人」を狙ったタリバンの犯 行。しかし実際に殺された のは、普通の行人だった。

「やけど病棟」に入る。こ こにはヘラートだけでなく、 近隣の州から重篤なやけど 患者が運び込まれてくる。 ベッドには番号がふってあ る。顔に包帯ぐるぐる巻きの 少女。「熱湯を浴びた」。 ハミド医師の言葉を聞くま でもなく、状況を理解する。 村では水道がなく、にごっ た井戸水を飲んでいて、こ 常にお湯を沸かしている。 そのヤカンをひっくり返し て熱湯を浴びる子どもが後 を絶たないのだ。

カブールに戻り、避難民 キャンプを訪れた。連日の 雪で、数あるテントが真っ 白になっていて。子どもた ちは雪だるまを作っていた。 カメラを構える私に、雪合 戦で喜ぶ子どもたち。遊び は世界共通だ。 テントの中に一歩足を踏 み入ると、そこには鼻水 をたらし震える子どもが いた。裸足で薄手のシャツ 一枚。「これでは、死んでし

まう」。カメラを回しながら、 思わずつぶやく。 「この冬、すでに何人も の子どもが死んだ。国連も政 府も何の援助もしてくれな い」。 援助の邪魔をしているの はタリバンである。避難民 の中にニュータリバンがい るので、国連も政府もま とにも動かない。「早くイン タビューを切り上げる。危 険だ」通訳が叫ぶ。先月は このキャンプで外国人が拉 致された。しかし、人々の 家を破壊し、家族を奪った のは米軍である。貧困の原 因を米軍が作り、貧困状態 をタリバンが加速させる。

中東激動! 日本沈黙? コラボ

2011年 **4/22** 金 **ライブ**

西谷文和 松元ヒロ

吹田メイシアター 小ホール
吹田市泉町2丁目29番1号 TEL 06-6380-2221

PM6:00 開場 6:30 開演

前売り 2,000円 高校生以下
当日 2,500円 障がい者 1,500円

入場料

TEL 06-6357-7006 FAX 06-6357-7016

お問い合わせ・お申し込み (株)かんきょうムーブ TEL 06-6875-9980 E-mail: niehinishi@r3.dion.ne.jp

主催:イラクの子どもの救済会

7度目のアフガン取材

7度目のアフガン取材